

後和

立命館
中等學部
第一號

發刊に際して

大 村 茂 雄

敗戦、此の苛酷なる現状より立上り、一刻も早く民主的學園を建設し、幸福な住みよき社會を構成するのは、我等に課せられた、最も重大な使命でなくてはならぬ。

敗戦此の方、一年有半、超國家主義と、軍國主義打破に伴ふ、學園民主化の叫びは、我等立命館學徒を、如何程自主的にし、又向學心を奮起せしめ、且又進取的ならしめたか。渾沌たる社會の荒波にもまれつくした、我等の中には、遂にとるべき方向を誤り、自覺の念を失ひ、自由と放縱とを履き違へ、學徒にあるまじき行爲さへも敢てし、世人の顔を背ける様な態度に出ずるものが多々あるのは、否み難き事實である。斯くの如き實狀を、放置すれば、我學園の存續は、最早憂慮すべき状態となるであらう。だが、一學園の興亡と云ふことより、もつと留意し、眞面目になつて考へなければならぬ問題は、我等青少年學徒の精神遲緩によつて、此の亂れた社會が、益々亂れ、頽廢

せる道義が益々頽廢し、果ては、我民族の滅亡を招くと云ふことである。此處に我等は、大いに反省し、大なる理想を持つて、世界人類の幸福發展のために、進まねばならぬ。それとともに、一時の迷に踏込んだ人々を、善導するの我也等の仕事の一つであらう。

學校生徒自治會が発足し、學徒の自治機關は構成されたが、果して、其の活動振りは如何であつたらうか。上邊に走り、末端にとらはれ、學徒の自分を忘れ去つた様な状態が、伺はれるのは遺憾なことである。勿論、戦争中軍國主義によつて教育され、上司の云ふがまゝに動かざるを得なかつた我々に早急に自主的たれと要求するのは、無理ではある。しかしそうかと云つて、いつまでもその状態ではからうか。否、一刻も早く、眞の自由を目覺め、民主學園の建設に努力しなければならぬ。しかるに今の學徒が全般的に思想が貧困であることは、大いに憂慮すべきことである。今回有志者による月刊紙を發行することになつたが、勿論未完成な我々の編輯による、拙い一紙ではあるが、少しでも、立命館學徒の啓蒙運動に貢献することが出来れば編輯人として最も幸甚とするところである。

經濟的、内容的に最も困難多き、此の事業に敢て當らんとする、我々の志を諒として、其の目的達成の爲に、校友諸君の絶大なる御後援を切望する次第である。

生徒諸君の自主的な月刊紙の創刊を祝して

一中教諭 小山 五郎

今回、本學園一申四年生の一部有志諸君の熱心な發意と多大の努力によつて、こゝに生徒諸君自らの創意と編輯による月刊學園新聞の誕生をみるに到つたことは、敗戦後、本學園に於ける生徒諸君の自主的活動のうち、極めて意義ある企であるのみならず、中等學生として全國的にみて極めて進歩的、建設的、且つ劃期的な試みであると信じこゝに滿腔の賛意を表すると共に誠に慶賀に堪えません。

従來、今次の戦前に於ては各中等學園に於て、屢々作文集程度の學園誌の出版がみられ、本學園に於ても嘗て二十數頁程度の學園誌が刊行されたことがあり、又今次の大戦中にも師弟共同の綜合的な研究機關紙の學友會誌といつたものゝ發行が計畫にのぼつたことさえあるのです。ところが、かゝる企が今回一部有志諸君の手によつてはあつたが、本學園生徒諸君の中から發意され編輯されて、こゝに發刊をみるに到つたことは、敗戦後、勉學・修養に對する熱意が極度に低下し、極めて安きに着かんとする憂ふべき學徒の現状に對して、一脈の光明と清涼劑を興えるものであり、自らを修め自らの學園の啓蒙化に乗出さんとする極めて進歩的・建設的な試みと謂ねばなりません。而も、これが従來の型を破つて、新聞といふ形式が